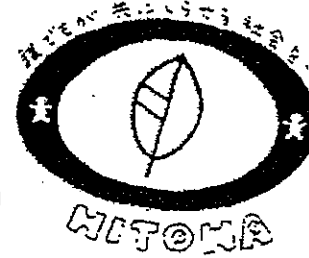


ひとはつうしん



社会福祉法人 ひとは福社会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホ-ム) http://hitoha-fukushi.com (E-メール) honbu@hitoha-fukushi.com

- 1つの間に春爛漫、ひとはでも桃の花が見ごろとなっています。
- 今年度もひとはに新しい仲間が加わります。ある人は利用者として、ある人は支援者としてですが、ひとはを活動拠点として、お互い影響し合ってひとはの運営理念が目指す共生協働の地域づくりに一歩を踏み出してくれるものと思います。
- 学ぶということは、ただ単に覚えこむことではなく、学んだことの証は、何かが変わることである。何かが変わるのか、それはものの見方が変わり、考え方が変わり、生き方が変わるということだと言われています。
- ひとはが自生文化を発信するための活動拠点であるということを掲げているのは、障がいのあるなしに関わらず、人間は影響し合って自らの尊厳に気づき、相手の尊厳を引き出すという相互変容の関係にあるということを、実践的に確認しているからです(その辺は『お〜い、聴こえますか』や『ゆたらかい』にも書いてあります)
- 私はかれこれ45年あまり、知的な障がいのあるといわれている人たちと付き合ってきましたが、自らの成長過程を振り返ると確信的にそう思えるのです。
- これからも若い人たちが双方にかけがえのない命があることを認めあて、生きがいを抱えている仲間の思いを「ほっとけんぷのう」と受けとめるとともに、生きがいにまかかわらずその人の根底に宿る人間力のすばらしさを引き出せる取り組みを期待しています。何よりもしっかりと聴くことを大切に。
- みなさんのご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。
(理事長 寺尾 文尚)



「みなさんのおかげでした。」

3月17日土曜日に、ひあ・くらぶの内覧会を開催しました。開設準備に取り掛かって約10ヶ月、たくさんの皆様の「おかげ様」がありました。事業開始に必要な丁度良い物件も見つかり、事業に必要な家電製品等もひとは会の皆様、法人職員からの提供を受け、ほぼ揃えることができました。そして、建物の据付け棚などの調度品については、この度も評議員の茅野さんのDIYでオーダーに応じてあわせていただきました。その時、その都度の思い付きのような注文にも「よし、分かった」と、子どもの安全と快適性を優先して温かみのあるものとしていただきました。これからがスタートのひあ・くらぶ。子ども達の成長に寄り添える事業所として、子ども達と一緒に成長をします。
(児童支援部 佐竹 正亮)

ささき亭のレシピコーナー

高野豆腐のチーズ焼

①水で戻した高野豆腐を耐熱容器に並べてラップをし、レンジで3〜4分チン!

②ぐずれないようにやさしく押し洗い、水気を切る。

③だし汁1カップ、しょうゆ小匙1、塩小匙3/4、みりん大匙1/2をよく混ぜ、耐熱容器に入れて高野豆腐を並べて入れてラップをはきつけるようにしてレンジで5分チン! そのまま冷ます。

④お好みの大きさに切ってとろけるチーズをのせ、オーブントースターで焼いて黒こしょうをふる。

⑤70代で現役のきれいな女優さん、いつも冷蔵庫に高野豆腐を入れて毎日食べると言っていました。不定期で掲載していきます。

ある週のおまかせランチ ¥650

高野豆腐のチヂミ、ワカメ春雨の梅だし汁、おみそ汁、お茶、デザート

ささき亭で人気のメニュー。ご家庭でもぜひお試しください。

「そっと支えること」

先日、初めて朝の勤務を一人でする事になり、不安と緊張の中、その朝は
 やって来ました。
 たんとか朝食の準備を終え、食事が始まると「今日は糸肉豆はないん？」という声か。
 うっかり、納豆ではなくぶひかけを出していたのです。
 高伏さんに「原さん、今日は一人なん...？」と聞かれて「そうよー、一人たんよー」
 という「それじゃあ、しょうがないねー」と、やさしい言葉を返してくれまして
 それまで忙しかた、た気持ちか、ほこりしました。
 こうして、きららの仲間に加わっていただきながら、一人デビューは終わったのでした
 (食事部 原加代)

「モチベーション」

食品製造で、東広島市にあるあおぞらぱん屋さんへ見学に行った時のことです。
 きららの仲間もスタッフも、たくさんの刺激を受けた見学となりました。
 見学の時、使った道具を笑顔で掃除されている方を見た新谷さん。翌日から
 エプロンの埃を掃除機で吸い取り始めたり、みそ部屋の掃除を笑顔で行
 たりと、自分にも出来ることを早速取り入れていました。
 きららの仲間もスタッフも新谷さんを見習い、見学で得たことを日々の活動に
 取り入れて、どこにも負けないような商品を作ります。
 (就労センター あぶ 木本ひとみ)

「折りあいをつけること」

同じグループの沖本さんは、車を使っての外出が大好きな方です。毎日の仕事も車に
 乗っていくのであればご機嫌で、車に乗る時のこだわりが助手席に座る事だったので
 ある時、他の仲間が先に助手席に座ってしまいました。その時は「なんでわしの席に座ると
 んや〜」と怒っていたのですが、「他の人も助手席に座りたいんよ〜し〜たまには他の
 人にも譲ってくれたら嬉しいな」とその都度確認しながら伝え続けると、いつか「帰
 りは代わりの〜」と言って譲ってくれるようになった。とても微笑ましく心が温か
 くなった瞬間でした。
 (UCC作業所 越智修)

「おいしい毒ができるまで」



ひとは農園のビニールハウスをのぞくと、たわわに実った大粒の毒が誇らしげに
 甘い香りを漂わせています。食べた人なら言わずと知れた「ひとはの毒」のおいしさ。
 収穫作業をしている井上さんと松田さんに聞いてみました。
 「どうしたらそんなに美味しい毒ができるの？」
 「毒、美味しいです。毒、美味しいです。」と井上さんが連呼しながら去って
 いきました。「夏から秋ごろ、土を運んでは、はを取って...」と松田さんが作業工程を話して
 くれ、「採っていると、思わず食べたくなります。」とニマリ。
 育てるところからかかわっている農園のみんなが、毒たちにたくさんの愛情をそそいでいる
 からこそ、甘くおいしい毒になっただけでしょう。今度ひとはの毒を口に入れる時、そんな光景を
 思い浮かべてみようと思います。
 (ひとは工房 伊藤千代子)



「旅行前のひととき」

自治会きらら旅行開催の前日のこと。
 友子さん「行ってくるけーね！目標は誰がさしてくれるかね？文尚さんは行くの？」
 康次さん「竹内のお姉さんはどこに行くんか!!」
 成子さん「竹内さん、旅行の準備したよ、竹内さんは？今日仕事頑張ったら行けるよ(笑)」
 待ちに待った旅行の始まりです。
 (事務 竹内宏美)

編集後記

「ひとはつうしん」は、代々書き手のスタッフPV一人、編集、
 ね、仕事PV 終わった夜書きあがるパターン。
 昨年、編集会議なるものを月一回開き、編集長
 竹内さん、書き手の白井さん、後援会から青尾(順)PV
 担当すること。私は素直に参加している。
 青尾順子

